

市川の空気を調べる会

通信 14号 2018年10月3日(水)



発行 市川の空気を調べる会 代表 鈴木一義

電話&FAX : 047-373-8369 E-mail : kazu38yoshi@eos.ocn.ne.jp

☆ 2018年6月度 NO₂測定結果の概要

定例測定日の6月7日(木)は晴れ、8日(金)は晴れのち曇り夜小雨で共に弱風でした。有効測定数は市川市内(隣接する一部他市を含む)319件、市外は松戸市関さんの森100件千葉市10件船橋市4件でした。

市川市内測定結果

6月度の市内全域と住宅地、沿道地別の平均濃度とその推移を図1に示します。

図1 市川市内の6月度 NO₂平均濃度(ppm)の年度推移

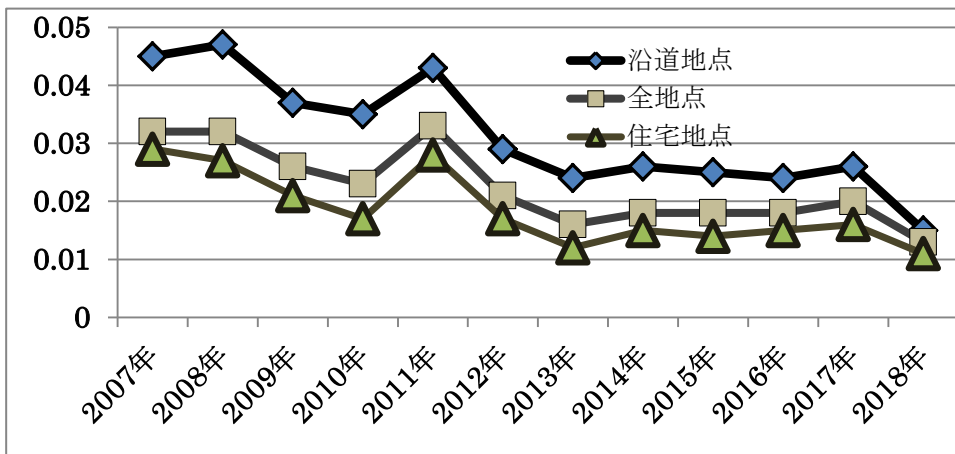
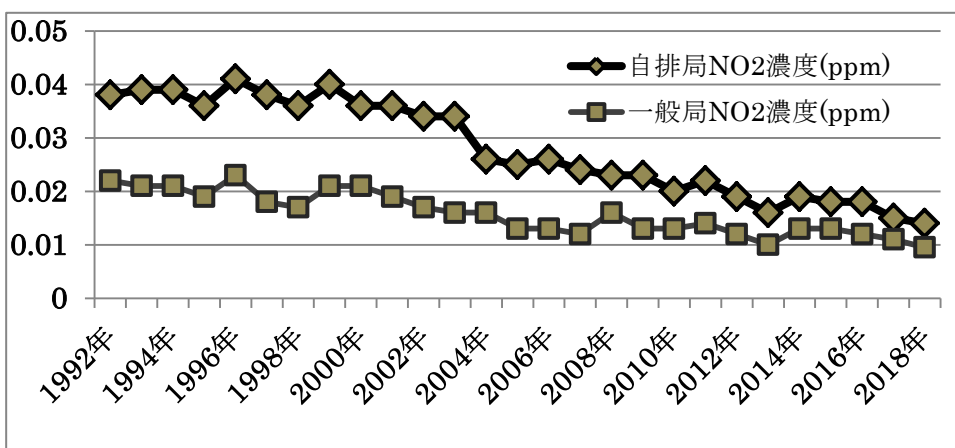


図2 定例測定日周辺の市測定局6月度 NO₂平均濃度の推移



今回の定例測定日は、市川市測定局の値で見ると市全体として周辺の日とほぼ同等の濃度の日でしたが、私たちの測定地点の平均濃度は図1の通り、沿道地、住宅地ともこれまでの最低濃度となりました。

定例測定日周辺24日間の測定局平均濃度27年間の経過も図2に示す通り前年度より少し低下しています。

今回は外環道開通後5~6日目の値で、外環道の交通量がまだ少ないためとも考えられます。

外環道路開通の影響

○市内主要道 NO₂濃度の外環開通前後の比較

今年6月度と前年6月度の沿道濃度を比較してみます。市全域の濃度が2017年6月度は高く2018年度は低かったが、住宅地域の平均濃度は道路開通の影響を受けず同じ値になると仮定して、2017年度住宅地域の平均濃度0.0158ppmは2018年度の0.0107ppmの1.477倍なので、少し乱暴ですがこの値を2018年度の全ての道路の平均値に掛けて、両年度の道路濃度の比較を行いました。下表の(C)はこの割り増しをした2018年度の値で、この値に対する2017年度の各道路の濃度比が(D)です。

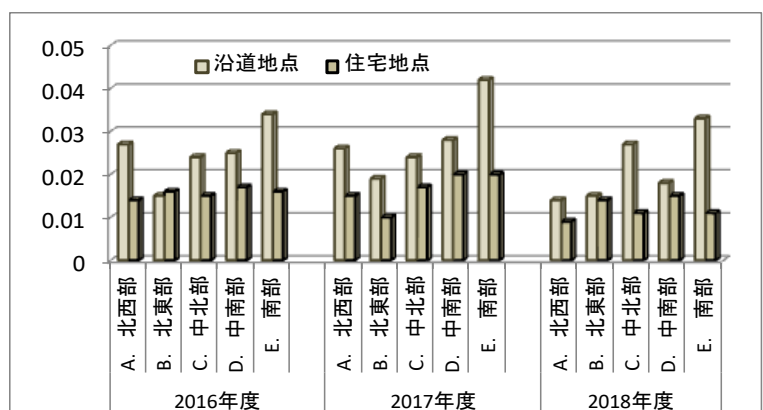
右ページの下手な市内道路図を見ながら、各道路の濃度増減を見ましょう。開通前は外環道の国道が連結していた松戸街道とそれに接続する産業道路が大きく2割以上減少しています。一方外環道と直接接続する京葉道路は5割以上増加し、外環道I C経由の車で椽の木道路や国分バス通りも増えています。外環道の濃度が開通前の計画線より減少していますが、近くの新田測定局での風速が開通後1,2週とも平均2.4m/秒と強かったことも一因として考えられます。いづれにしても、この開通後の濃度は開通後間もない時のものであり、今後交通量の増加と共にこれらの値は大きく変わると思われます(カッコ内数字は測定地点数)。

	(A) 18年6月	(B) 17年6月	(C) (A)×1.477	(D) (C)/(B)
国道464号(10)	0.015	0.021	0.022	1.03
国道6号(4)	0.021	0.028	0.031	1.10
旧市松有料(4)	0.0175	0.025	0.026	1.04
国分バス道路(6)	0.0135	0.016	0.020	1.22
国道14号(15)	0.0185	0.026	0.027	1.06
市川柏線(4)	0.012	0.020	0.017	0.88
椽の木通り(4)	0.0165	0.018	0.024	1.37
松戸街道(33)	0.014	0.029	0.021	0.72
産業道路(11)	0.018	0.034	0.027	0.80
京葉道路(4)	0.019	0.0175	0.028	1.58
3.4.18号(20)	0.012	0.020	0.018	0.87
外環道路(40)	0.012	0.021(計画線)	0.018	0.83

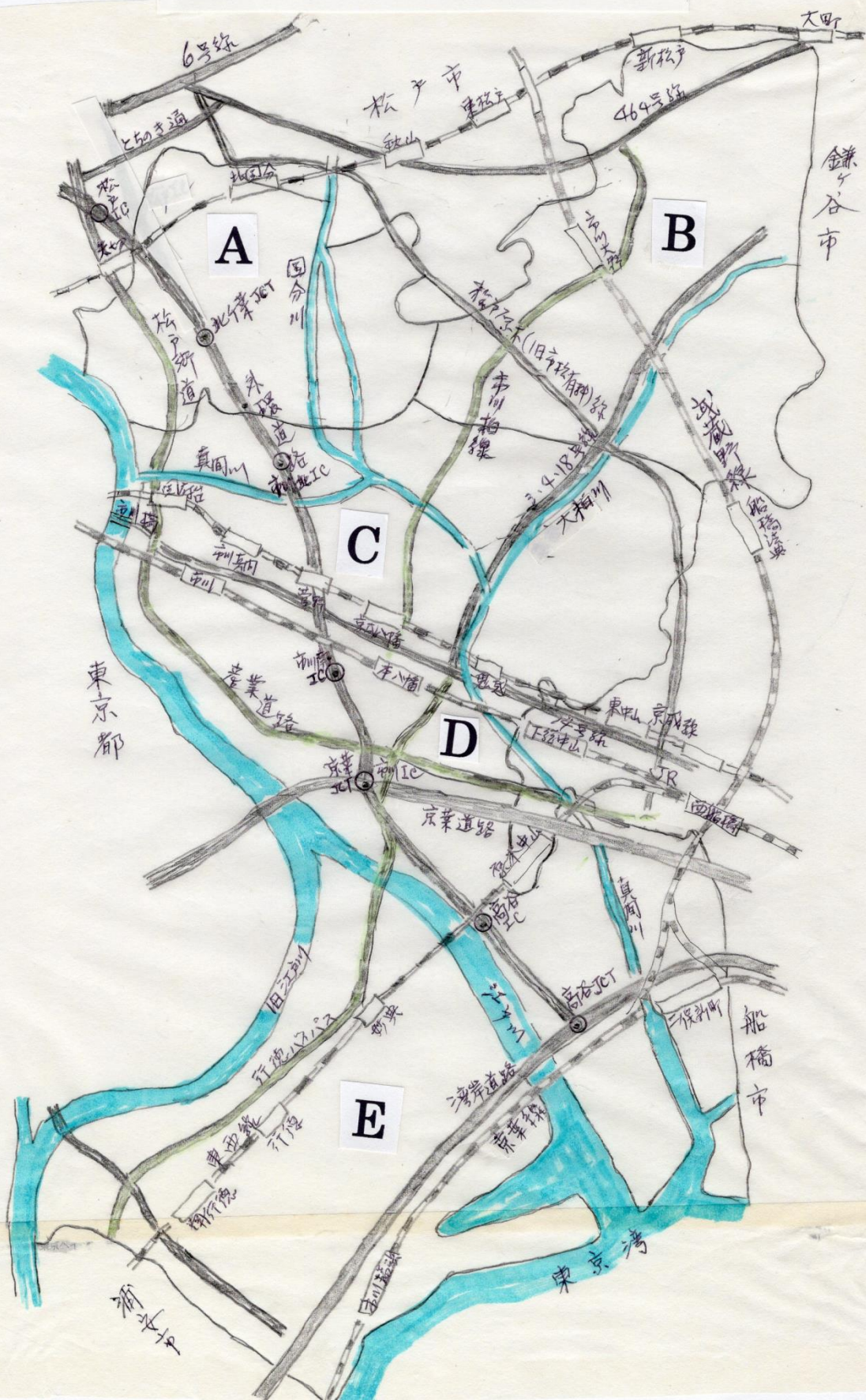
○地域別 NO₂濃度の推移

松戸街道と産業道路の大型物流車が殆ど外環道路に移ったことから、A.北西部とD.中南部の汚染度が大きく減少しました。C.中北部沿道部の高濃度は区域内走行距離が比較的長い14号線と外環道路の影響が考えられます。これらも今後変わると思われます。

図3市川市地域別6月度NO₂濃度の推移



市川市の地域区分と道路河川鉄道路線図



☆外環道路が開通して

○ これから出てくる外環の影響

北国分 石居隆行

今回の測定結果は、一見して市内全体の空気が良くなったような印象を与えるが、慢性的渋滞を起こしていた松戸街道が、外環開通後初期には、圧倒的に交通量が外環にシフトした為、NO₂の発生量は激減したものと考えられ、また現時点では交通が流れている外環道では、国道部の平面交差点における加速時の排ガスの影響程度で、全体的なNO₂の発生量は減少しているのではと考えられる。

毎日運転する私としては、都内・市内共にここ数年の景気減速（政府発表インチキ統計とは逆に）及びガソリン高での交通量減少を肌で感じ、1ページ図のような結果の通りである。しかしながらこれは、排ガスの発生源が松戸街道から外環へシフトし、3・4・18号線と共に、国府台など市川北部から多方面に拡散された結果によるものである。外環沿道の月間計による測定結果では、外環開通後1か月でNO₂の値が2割増しとなっているとの報告を受けている。かつて最も空気の良い環境であった地域が悪化の一途となっている。ここへ千葉北道路が接続となれば、市川北部の空気環境は壊滅的な打撃を受ける事になるだろう。

○ 大きく変わった矢切の町

三矢小台（元中矢切） 浅井ゆき

外環道路が開通して3ヶ月。矢切の町の風景はすっかり変わった。外環道路の交差点に立つと、目の前を通り過ぎていく貨物車輛の多さに驚かされる。

一度の青信号で外環道路を渡り切れず、中洲部分で次の青信号を待つ高齢者をよく見かける。「歩行者は2度の信号で渡ってください」と書かれた看板が立っている。ベンチがあるわけでもなく、日射しを遮る樹木があるわけでもなく、トラックが勢いよく通り過ぎる交差点の真ん中で歩行者が待たされる。それが外環道路だ。

「道」って何だろう。地域で暮らす人々の、それぞれの生活をつなげるために「道」が作られたのではないだろうか。人々の暮らしが広がり、人との交流も広がり、それにつれて「道」も伸びていく。「道」ができれば、それに合わせて人の暮らしも変わる。人の暮らしが変わればまた「道」も変わる。

外環道路は、私たちの暮らしを変え、町を変えた。今、矢切に物流センターを建設する計画が浮上している。その計画を阻止したとしても、外環道路がある限り、同じような施設の建設計画がまた持ち上がってくるだろう。そういう町になってしまったのだと思う。そういう町にしたいなくて、外環道路建設に反対してきたのだが、もう以前の矢切の町には戻せない。無念。

あとがき

大変遅くなりましたが、6月度測定結果の通信をお送りします。6月2日遂に外環道路が開通しました。千葉県都市計画審議会の計画決定から実に49年後です。この6月度測定は開通後第1回の測定結果です。皆様のご協力に感謝いたします。今後ともよろしく願いいたします。

外環道路 国道部



会費納入のお願い 2018年度会費がまだの方（振込用紙同封）はよろしく願いいたします。